初等部だより　６月号

鎌倉女子大学初等部
平成２９年５月３０日
第 ３ 号

「遊び」の必要性と充実した施設

部長代理　　勝木　茂

青空に木々の緑が映えわたり、さわやかな季節となりました。

新しい学級がスタートして２ヶ月、みんなと話し合って決めた「学級目標」や「係活動計画表」、「委員会活動の目標」など子どもたちの学習や生活の歩みが掲示されている学級や学年も増えてきました。目標に向かって、有意義な初等部での生活が送れるよう日々の指導を充実させていきたいと考えます。

５月１７日（水）～１９日（金）６年生が高橋部長、６年担任引率のもと修学旅行（愛知、岐阜方面）に行ってきました。日常の初等部での生活とは違う環境のもと、見分を広め、自然や文化などに親しみ、人間関係など集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができたのではないかと感じています。修学旅行での体験をいかし、６年生には、全校のリーダーとして更なる活躍を期待したいところです。

※下線部、文部科学省小学校学習指導要領解説特別活動編より一部引用

本学に着任して素晴らしいと感じたことがいくつかあります。そに中のひとつは、子どもたちが、始業前の時間や休み時間にグラウンドで仲良くのびのびと遊んでいることです。

子どもは「遊び」を通して、様々なことを学んでいきます。特に、一人で遊ぶよりもみんなで遊ぶと「楽しい」という充実感や満足感が大きくなります。また、外遊びは体全体を使って動くことが多く、自然と体力がつき運動機能が向上することも期待できます。

一緒に遊ぶということは、楽しいことばかりではありません。時には、友だちと上手くいかずトラブルとなることもあります。もちろん、いじめや暴言、暴力には教師や保護者をはじめとする責任ある大人が適切な指導をすることが不可欠ですが、自分の思いだけを常に押し通そうとしてもうまくいかないことや、友だちの気持ちを聞きながら折り合いをつけるにはどうしたらよいのかということを体験的に学ぶ貴重な場でもあります。

また、「遊び」を通して「思いやり」も育つと考えます。人は、だれしも弱点や欠点をもっています。また、得意なこともあれば苦手なこともあります。時には人と対立することもあります。けれども人は、成長と共に、自分と相手は違う人間であり、対等な立場であることを様々な体験を通して分かって来るようになります。そして、相手の立場を深く考えられるようになり、今、相手に何をしてあげるべきか、また、何をしてはいけないのか、そのことを「思いやる」ことができるようになってきます。これらは、運動会や宿泊体験学習、学芸会などの学校行事をはじめとする教育課程（授業）の中で実現させていくことが基本ですが、日常的な「遊び」を通しても十分に育つことが期待できます。

本学には、子どもたちの「遊びたい」という自然な欲求を十分に満たしてくれる充実した施設が数多くあります。昼休みには、高学年の子どもたちの、中・高等部と共用の第一グラウンドを使って思い切り遊ぶ姿もあります。「こころ」も「からだ」も、のびのびと育ってほしいものです。